

8-4-35 システム改善専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) システム改善専門委員会の開催

会員企業が運用しているマネジメントシステムの、改善や実効性向上に資する事例の収集、新たなマネジメントシステムの導入に有用な情報を収集することを目的に、令和4年度は12回の専門委員会（集合4回、オンライン8回）を開催した。

(2) マネジメントセミナーへの参画

マネジメントシステム委員会主催のセミナーに、傘下の専門委員会として参加し、「マネジメントシステムの効果的運用に向けて～実効性向上のための10のヒント～」と題して講演した。

事前の会員企業アンケート調査から、実務者の負担感軽減に有用と考えられる方策を整理し、具体的な事例を収集するとともに、会員企業へ浸透しつつあるAMSについても、近年の動向として認証取得組織数の推移、会員企業のAMSに対する意識などを整理し、紹介を行った。

なお、聴講者からは500件を超える意見が寄せられ、これを整理分析することで会員企業が抱えているQMS運用上の課題を抽出し、次年度以降の活動方針の策定に利用した。

(3) ISO認証に関する企業アンケートの実施

令和4年11月に環境配慮専門委員会との連名で、企業代表者及び事務局を対象に、会員企業のマネジメントシステム運用状況や、運用上の課題等に関するアンケート調査を実施して、127社から回答を得た。なお、アンケート回答から会員企業のQMS運用の懸案事項や対策の状況を把握して、次年度マネジメントセミナーのために整理分析を行った。

(4) 外部講師による勉強会開催

令和4年12月7日に、株式会社コンサルティングより松井氏を講師として招き、「品質管理の有効性と生産性を高めるための変化点管理の勘所」と題しご講演いただいた。

トヨタ自動車流の品質管理から得られた知見をも

とに、ものづくりの革新や改善に関するご講演を頂き、業務プロセスの変更だけに留まらず、労働環境や社会情勢の変化など、我々の業務執行上のリスクとなりうる事象に関して気付きや学びが得られ、実りの多い有意義な勉強会となった。

(5) QMS運用に関するヒアリング調査の実施

会員企業4社に対して、QMSの運用においてシステムの実効性向上のために取り組んでいる活動や、運用上の工夫などを収集することを目的に、対面でのヒアリング調査を実施した。ヒアリング先の企業における、実効性向上のためのDX技術の導入事例やその効果、企業規模やビジネスモデルの違いによるマインドの相違などにも触れ、有用な情報収集の場とすることができた。

(6) AMSに関する情報収集

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）で公表される適合組織データを分析し、ISO 55001（AMS）の適合組織数の年次推移、認証登録区分や分野の傾向を把握した。

(7) その他

公益社団法人土木学会からの委嘱を受け、令和5年3月6日開催の第58回ISO対応特別委員会へ委員を派遣した。

2. 次年度の活動について

(1) セミナー聴講者の意見や、ISO認証に関する企業アンケートの結果をもとに、QMS運用における「実務者の負担感軽減」の視点で、ヒアリングなどの機会を活用しながら運用上の好事例を収集し、マネジメントセミナーで発表する。

(2) QMS以外のマネジメントシステムについて、アンケート調査を通じて会員企業の要望等を把握し、ニーズに応える有用な情報を提供する。

(3) 専門委員会の活動を通じて得られた知見を、積極的に外部に発信する。

(4) 勉強会により、マネジメントシステムに関する最新の研究成果や、より深化した実践可能な情報を専門家から収集する。

(5) 関連する外部団体との交流を通じて、積極的に情報収集や情報交換を図る。

（システム改善専門委員会委員長 赤坂 保彦）